医薬品リスク管理計画
(RMP)

本資材は医薬品リスク管理計画に基づき作成された資材です

胆道癌

がん化学療法後に増悪したHER2陽性の治癒切除不能な胆道癌の治療で

ツカイザ®を服用される方へ

監修: 聖マリアンナ医科大学 臨床腫瘍学講座 主任教授　砂川 優 先生



はじめに

この冊子では、ツカイザ®の服用を安心して始められるよう、ツカイザ®の服用方法や副作用などをまとめています。
服用にあたって、ぜひ、この冊子をお読みください。
わからないことや不安に思うこと、詳しく知りたいことなどがありましたら、担当医・薬剤師・看護師に相談してください。



ツカイザ®の服用を始める前に

下記の項目に該当する方はあらかじめ担当医に伝えてください。

- 過去にお薬による
  アレルギーを起こしたことがある方
- 市販されているお薬も含め、
  現在、お薬を服用中の方
- 他の病院や医師、歯科医師による治療を
  受けている方、これから治療を受ける予定の方
- 肝機能障害または腎機能障害がある方
- 心機能障害がある方
  （左心室の動きが低下している、または、
  心不全と医師からいわれた方）
- 間質性肺疾患（かんしつせいはいしっかん）またはその既往歴がある方
- 妊娠する可能性のある方
- 妊娠中または妊娠している可能性がある方
- 授乳中の方

ツカイザ®はHER2の働きを抑えるお薬です

ツカイザ®はがん細胞にあるHER2（ハーツー）の働きを抑えるお薬です。HER2は細胞を増やす、移動させる、生存させるなどの機能を調節する役割をもっています。

がん細胞には、HER2が正常な細胞よりも多くあります。HER2が多いと、細胞の調節がうまくいかなくなり、細胞がどんどん増えたり、周りに広がったり、他の場所へ移動したりします。ツカイザ®は、がん細胞の中に入り、細胞の内側からHER2の働きを抑えます。

ツカイザ®は、がん細胞の外側からHER2の働きを抑えるトラスツズマブと組み合わせて使います。

2つのお薬でがん細胞をとらえる

ツカイザ®

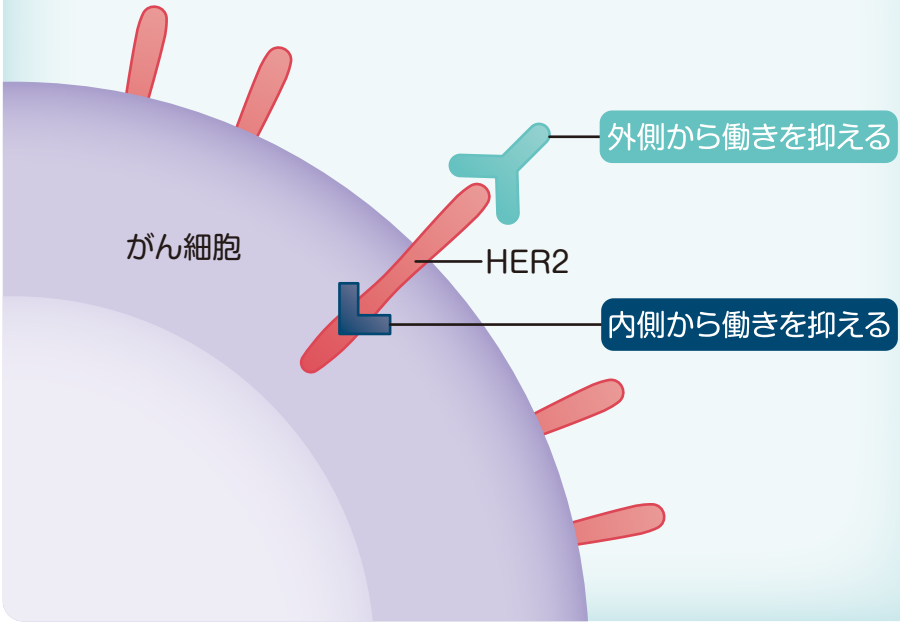
ツカイザ®は、がん細胞の中に入り、
細胞の内側からHER2の働きを抑える
お薬です。

＋

トラスツズマブ

トラスツズマブは、がん細胞の外側から
HER2の働きを抑えるお薬です。
免疫にかかわる細胞を呼び寄せて、
がん細胞を攻撃する作用もあります。

細胞の内側と外側から
HER2の働きを抑える



ツカイザ®の服用方法

ツカイザ®とトラスツズマブの投与は3週間（21日間）を1サイクルとして行います。



トラスツズマブ

3週間に1度、点滴をします。



ツカイザ®

3週間（21日間）、朝と夜に服用します。
食事の時間と関係なく服用できますが、
毎日同じ時刻に服用することで、飲み
忘れを防ぐことができます。

服用のスケジュール（1サイクル分）

トラスツズマブ



1日目に点滴

ツカイザ®



1週目

2週目

3週目

朝と夜に服用
（21日間）

ツカイザ®の服用中に気を付けること

ツカイザ®は錠剤の飲み薬です。



ツカイザ®150mg錠



ツカイザ®50mg錠

- ツカイザ®は噛んだり、砕いたりせず、そのまま、多めのお水と一緒に服用します。
- ツカイザ®は決められたスケジュールで正しく服用します。ご自身の判断で、服用をやめたり、服用する量を加減したりせず、担当医・薬剤師・看護師の指示通りに服用してください。
- ツカイザ®の服用中に、ご自身では気付かない副作用があらわれることがあります。ツカイザ®の服用中は定期的に血液検査などを行い、副作用があらわれていないかを確認します。



ツカイザ®の服用Q&A

Q. ツカイザ®の服用を忘れてしまったらどうしたらいいですか?

A. ツカイザ®の服用を忘れたときは、服用予定時刻の6時間以内に気付いた場合は、その時点でツカイザ®を服用してください。6時間以上経過していた場合は、その回の分は服用せず、次の服用予定時刻に1回分を服用してください。
また、服用し忘れたことを担当医・薬剤師・看護師にお伝えください。

Q. ツカイザ®を多く服用してしまったらどうしたらいいですか?

A. すぐに担当医・薬剤師・看護師に相談してください。

Q. ツカイザ®はどのように保管したらいいですか?

A. 直射日光を避け、包装された状態で室温で保管してください。
子どもの手の届かないところに保管してください。
他の人に渡さないでください。

注意が必要なお薬

ツカイザ®と同時に使用することができないお薬や同時に使用する際に注意が必要なお薬があります。現在、服用しているお薬がある場合は、担当医・薬剤師・看護師に相談してください。ツカイザ®の服用中に他のお薬を服用することになったら、事前に担当医・薬剤師・看護師に相談してください。

■ 注意が必要なお薬（例）

フェニトイン カルバマゼピン フェノバルビタール	てんかんなどのお薬
リファンピシン リファブチン	結核などのお薬
セントジョーンズワートを含む食品やサプリメント	

ツカイザ®の作用が弱まる可能性があります。

ミダゾラム フェンタニル	手術の際に使われる鎮静・鎮痛薬
ジゴキシン	心不全のお薬
エベロリムス	抗がん剤
シロリムス	リンパ管や血管の病気のお薬

これらのお薬の作用が強まる可能性があります。

※これらのお薬以外にもツカイザ®と同時に使用することができないお薬や、同時に使用する際に注意が必要なお薬があります。

副作用について

お薬には、病気を治したり、症状を和らげたりする本来の目的の「主作用」と、目的以外の「副作用」があります。副作用のあらわれ方には個人差があります。症状があらわれたときに早い段階で気付き、落ち着いて対処することが大切です。そのためには、どのような副作用があらわれる可能性があるのかを知っておくことが重要です。
気になる症状があらわれたときは、担当医・薬剤師・看護師に相談してください。

特に注意が必要な副作用

- 肝機能障害
- 心機能障害
- 重度の下痢
- 間質性肺疾患

頻度の高い副作用

- 発熱
- 下痢

※これらの副作用以外の症状があらわれることもあります。気になる症状などがある場合は、担当医・薬剤師・看護師に相談してください。

特に注意が必要な副作用

肝機能障害

お薬は肝臓で代謝されるため、肝臓の機能が低下することがあります。皮膚や白目が黄色くなるなどの症状があらわれたら、すぐに担当医・薬剤師・看護師に相談してください。

すぐに担当医に相談が必要な症状

- 発熱する
- 皮膚や白目が黄色くなる

肝臓の機能の低下は、症状があらわれないことがあるため、定期的に肝臓の検査を行います。
担当医から指示された検査は、必ず受けるようにしてください。



特に注意が必要な副作用

重度の下痢

下痢は放置すると、命にかかわるほど重症化することもあるため、放置せず、担当医・薬剤師・看護師に相談してください。便が泥や水のようになっているなどの症状があらわれたら、すぐに担当医・薬剤師・看護師に相談してください。

すぐに担当医に相談が必要な症状

- 便が泥や水のようになっている
- 何度も便をしたくなる
- 便をしたい感じがあっても便がでない
- さしこむような腹痛がある
- 便に血液が混じっている

下痢が続くと、脱水症状が起こることがあります。下痢を放置して起こる脱水の具体的な症状は、口の渇き、尿の量の減少などで、重症になると、脈が速くなる、血圧が低下するなどの症状があらわれ、さらに進むと意識が混濁します。下痢は放置せず、担当医・薬剤師・看護師に相談してください。

特に注意が必要な副作用

心機能障害

血液を送り出す心臓のポンプの機能が低下することがあります。心臓のポンプの機能が低下すると、十分な血液が送られなくなるため、酸素や栄養が全身に届かず、さまざまな症状があらわれます。息が苦しいなどの症状がある場合は、すぐに担当医・薬剤師・看護師に相談してください。

すぐに担当医に相談が必要な症状

- 動くと息が苦しい
- 足がむくむ
- 急に体重が増えた
- 咳がでて、痰がピンク色である
- 疲れやすい

心臓のポンプの機能の低下は、自覚症状がないこともあるため、定期的に心臓の検査を行います。
担当医から指示された検査は、必ず受けるようにしてください。



特に注意が必要な副作用

間質性肺疾患（かんしつせいはいしっかん）

肺の一番奥の酸素を取り入れる小さな袋（肺胞）の壁が厚く固くなり、酸素を取り込みにくくなる間質性肺疾患があらわれることがあります。
血液中の酸素が少なくなった状態で、症状が重くなる可能性があるので、早めの対処が重要です。
咳や発熱などの症状が急にでたり、続いたりする場合は、すぐに担当医・薬剤師・看護師に相談してください。

すぐに担当医に相談が必要な症状

- 咳が急にでる
- 動いたときに息切れがする
- 発熱する

間質性肺疾患のはじめにあらわれる症状は、風邪のような症状で気付きにくい可能性があります。
いつもと違う体調の変化に気付いたら、症状のあらわれた時期や頻度、発熱や胸の痛みなどの症状の有無、日常生活で支障がでたことなどをメモし、診察の際に担当医にお伝えください。



頻度の高い副作用

発熱

体温が平熱よりも高い状態のことで、一般的には体温が37.5度以上の場合を発熱といいます。

はじめにあらわれる症状

- 寒気、体の震え
- 脈拍や呼吸が速くなる
- 体を熱く感じる、汗をかく
- 関節や筋肉が痛む　など

すみやかな受診が必要な症状

- 38度を超える発熱があるとき
- 意識がもうろうとしている、尿の量が極端に少なくなっている、普段より血圧が低いなどの場合は、夜間や休日でもすみやかに受診する

日常生活の工夫

発熱すると体の代謝が上がり、エネルギーを消耗します。適度な水分補給、安静を心がけ、解熱し体力が回復するまで十分に休むことが大切です。

加えてできるさらなる工夫

- がんの種類、行っている治療、持病があるかなどによって発熱への適切な対応は異なるため、発熱時の対応やどういったときに医療機関への連絡が必要かをあらかじめ担当医に確認しておく
- 発熱のために受診した後も、発熱が続いて体がつらい、飲み物さえ飲むことが難しい場合などは我慢せずにもう一度医療機関に相談する



頻度の高い副作用

下痢

下痢があらわれることがあります。下痢が続くと脱水症状を起こすことがあります。

はじめにあらわれる症状

- 水の多い便や、形のない便が頻回にでる　など

すみやかな受診が必要な症状

- 治療前の排便回数とくらべて、1日の排便回数が7回以上増える

日常生活の工夫

下痢がある場合は、温かく消化によいものを中心に少しずつ食べる、刺激の強い食品を避けるなど、胃や腸を刺激しない食事が大切です。

加えてできるさらなる工夫

- 脱水をふせぐために水分やスポーツドリンクをこまめにとる
- 排便後は肛門まわりを清潔に保つ



いつもと違うな、と感じたら

副作用の症状には個人差があります。
本冊子に掲載した副作用以外の症状があらわれることもあります。
日常生活の中でいつもと違うなと感じたり、不安なことや体調の変化があったりしたときは、担当医・薬剤師・看護師に相談してください。
症状によってはお薬をしばらく休んだり、量を減らしたり、あらわれている症状の治療をしたりすることもあります。

Memo

ツカイザ®のサポートツール

ツカイザ®による治療をサポートする資料をご紹介します。

服薬日誌：ツカイザ®を服用される方へ



- 気になる症状や不安なこと、体調の変化、お薬の服用の記録、担当医・薬剤師・看護師に相談したいことなどを記録していただくための日誌です。
- 通院時には持参して、担当医・薬剤師・看護師にみせるようにしてください。

ウェブサイト

お薬についての情報を掲載しているウェブサイトをご紹介します。

ウェブサイト：患者さん向けくすりの情報提供サイト

https://www.pfizermedicalinformation.jp/patient

- お薬を安全にご使用いただくための基本情報などを掲載しています。検索窓（入力欄）に「ツカイザ」と入力して検索することで、情報がご確認いただけます。

医療機関名：
担当医名：
緊急連絡先：

かかりつけ薬局名：
薬剤師名：
緊急連絡先：

TKY57Q004A
2026年11月作成